



お「鐘」がいっぱい

第6次新動物植物国宝 梵鐘 60円切手と消印



1980年（昭和55年）11月25日、国宝・平等院の梵鐘をデザインした60円新普通切手が発行されました。これは1981年（昭和56年）1月20日からの郵便料金改定を見据えたもので、同図案のコイル切手や5枚組みの切手帖ペーンも発行されました。この60円梵鐘切手は昭和末期から平成初期を代表する、たいへんなじみの深い切手です。

昭和5、60年代から平成初期は、消印の形式が全般的に切り替わりました。鉄郵印や局名間バー入り印が末期を迎える一方、新たに三日月型試行印や丸型日付印が立て続けに導入されました。これに伴って、従来の形式と混合した消印バラエティが生まれ、この切手の使用済み収集に彩りを添えます。

昭和から平成へ代替わりする時期は「バブル景気」とも重なります。ここでは「お鐘がいっぱい」と銘打って、ありふれた梵鐘60円切手に押されたさまざまな印影を、できるだけ実逓印にて紹介してみます。

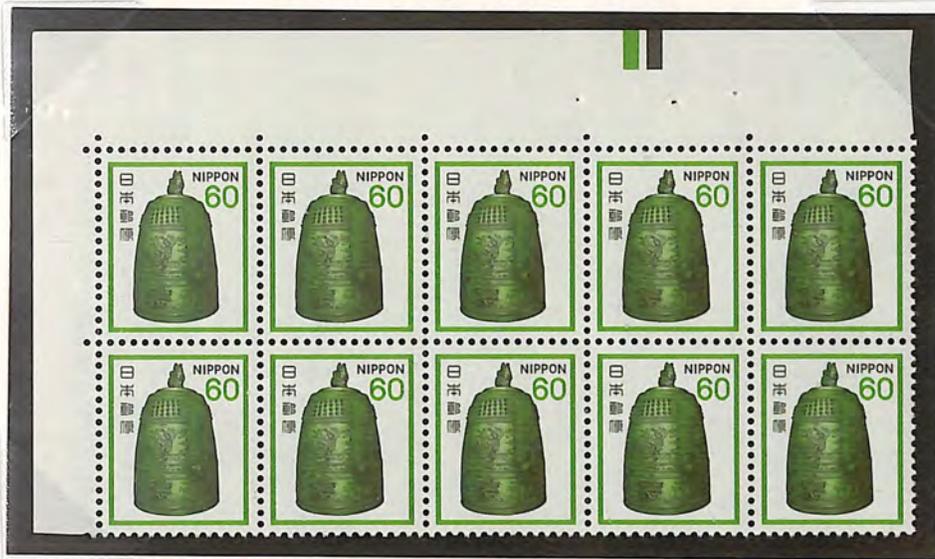
梵鐘 60 円

1980 年（昭和 55 年）11 月 25 日発行

定形 25g までの封書料金切手。国宝・平等院の梵鐘を描く。



連続櫛型（逆二連 1）目打、上 CM（濃色）付第 1 コーナー、電子製版



下抜全型目打、上 CM（濃色）付第 1 コーナー、電子製版



ロータリー目打連続型（5 段目に特徴）、第 2 コーナー、計数番号 6 桁 20 番、



上 CM 濃色
電子製版



上 CM 暫定版（淡色）
コンベンショナル製版



下 CM 濃色
電子製版



銘版
電子製版



みほん



和欧文機械印
(下 CM 淡色)



唐草機械印
丸型印



丸型欧文印
三日月型欧文印

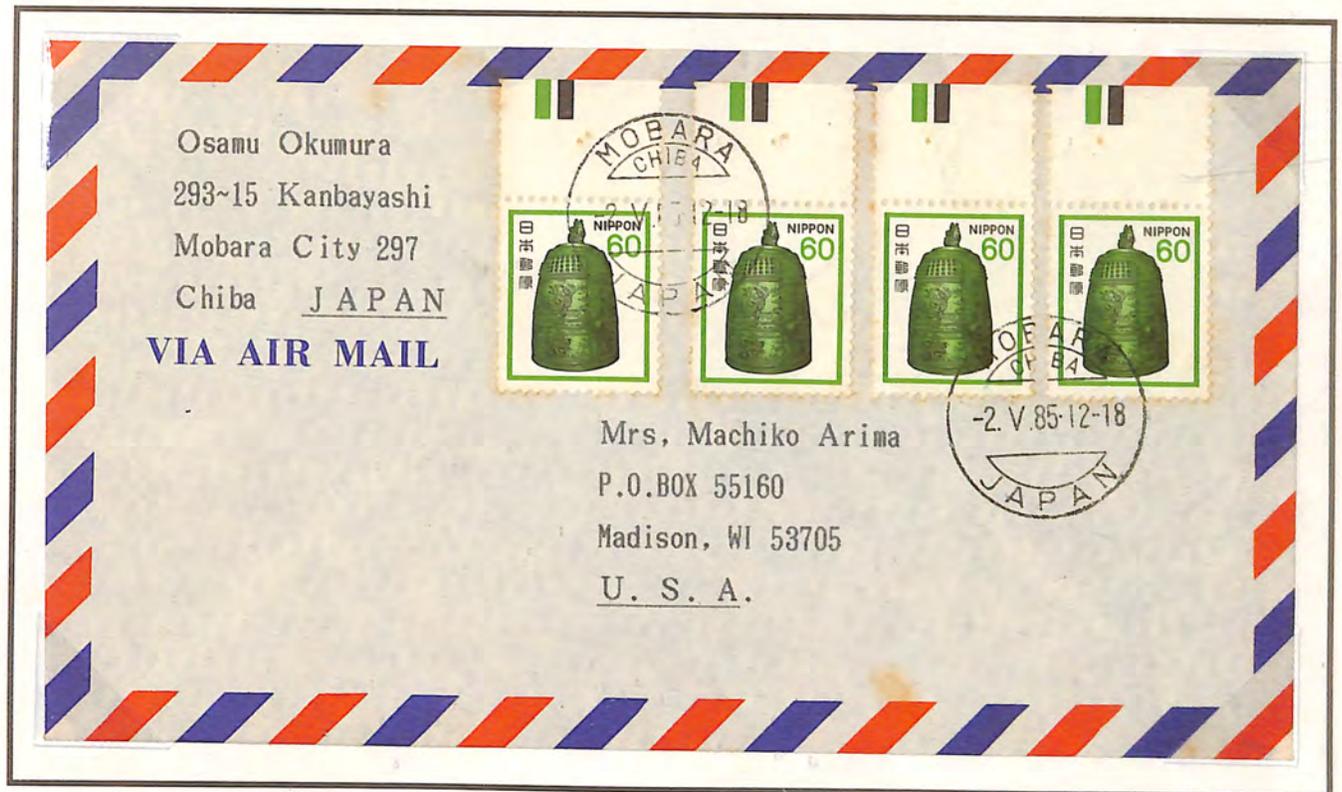


和文ローラー印

外信航空便

MOBARA / CHIBA 2. V. 85

第 2 地帯 (北米) 宛 10g まで 150 円
10g 超ごと 90 円、計 240 円
(昭和 56. 1. 20 ~ 平成 1. 3. 31)



船内郵便

定形 25g まで 60 円 (昭和 56. 1. 20~平成 1. 3. 31)

昭和基地内 60. 12. 14

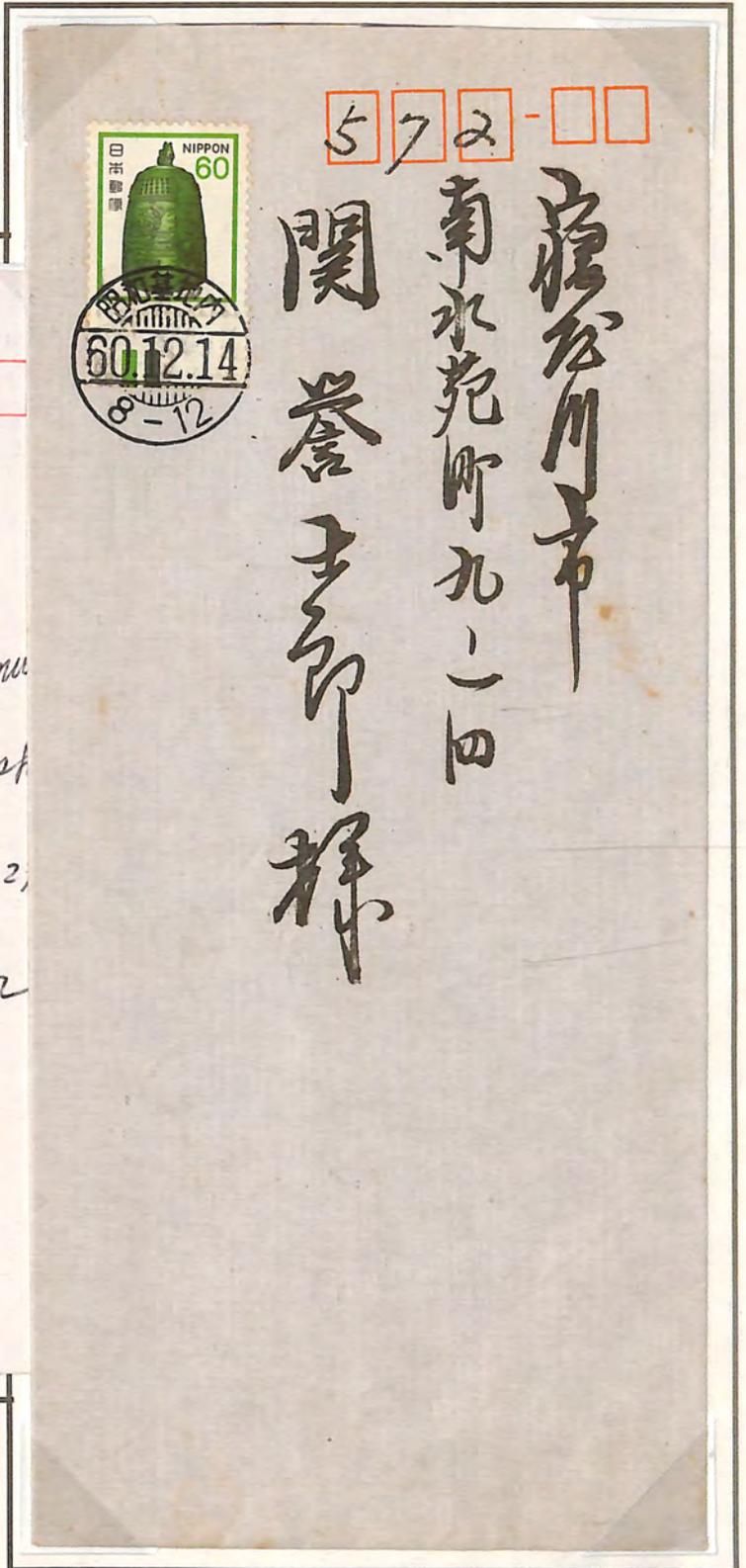
南極の昭和基地内に設置された郵便局は日本郵便の管轄。郵便物には日本の郵便制度と料金が適用され、南極観測船「しらせ」で年 1 回運送される。

パクボー

RICHARDS BAY 日本の郵便制度と料金が適用される
PAQUEBOT

24. X. 85

公海上を航行中の船舶郵便局では船籍国の郵便制度に従うので、日本国籍の船舶内で差し出された郵便物には日本の郵便制度と料金が適用される。



定形重量便

滋賀・安曇川 55. 12. 1
第 1 種定形書状 25g~50g 60 円
(昭和 51. 1. 25~56. 1. 19)



滋賀・船木
55. 11. 30



紋別
55. 12. 18



福岡・赤間
56. 1. 6



神戸中央
56. 1. 12

520-91

大津市京町四丁目
三番三十八号
至赤連鶏野課
物中

昭和 年 月 日
滋賀県高島郡安曇川町大字田中104番地
安曇川町農業協同組合
電話 安曇川 (07403) (代) 2-0012 番
520-12

刊行物帯封



第 3 種便

差出：ガラス新聞社

名古屋中央 56. 1. 20
(料金改定初日)

月 3 回未満 50g まで 40 円、
50g 超ごと 5 円増し
(昭和 56. 1. 20～平成 1. 3. 31)

200g 超までで 20 円加算
計 60 円



第 1 種便

差出：岐阜県保健医協会

大阪中央
(三日月型試行印)
61. 8. 28

定形外書状
50g まで 120 円
(昭和 56. 1. 20～平成 1. 3. 31)

左書き櫛型鉄郵印

鉄道による郵便物の運送は鉄道仮創業の1872年（明治5）から。鉄道郵便日付印（鉄郵印）とは、駅のポストに投函された郵便物の引受と抹消のために、鉄道郵便車の係員が使用する日付印。左書き櫛型鉄郵印は昭和25年から登場した。A欄に鉄道郵便線路（区間）名、C欄に便名（と乗車区間名）が表示される。全国200以上の区間で使用されたが、1984年（昭和59）1月で鉄道郵便が廃止された。梵鐘60円時期は鉄郵印使用の終末期に当たる。



北海道・東北



名寄遠軽間



旭川網走間



函館旭川間



函館滝川間



函館札幌間



滝川釧路間



帯広釧路間



釧路網走間



池田北見間



深川留萌間



新津青森間



新津秋田間



盛岡大館間



花巻盛岡間



仙台山形間



平郡山間



福島秋田間



新潟酒田間



郡山新潟間



新潟秋田間

関東・北陸



水戸郡山間



高崎小山間



東京仙台間



東京新潟間



東京直江津間



東京長岡間



東京松本間



東京塩尻間



東京下関間



東京門司間



直江津新潟間



新潟塩野間



金沢輪島間



高岡城端間



米原直江津間

東海・関西



豊橋辰野間



岐阜富山間



塩尻名古屋間



名古屋塩尻間



名古屋長野間



名古屋和歌山間



敦賀東舞鶴間



福知山下関間



大阪青森間



大阪金沢間



大阪東舞鶴間



大阪福知山間



京都下関間



京都米子間



京都出雲間

中国・四国・九州



米子下関間



厚狭長門間



出雲下関間



高松宇和島間



高松松山間



高松牟岐間



高松中村間



門司鹿兒島間／東回



門司佐世保間



門司宮崎間



門司大分間



鳥栖長崎間



鳥栖大分間



博多伊万里間



有田佐世保間



諫早加津佐間



熊本大分間



吉松鹿兒島間

局名間バー入り櫛型印

昭和 30 年代後半から平成初期にかけて、九州郵政局管内の、局名が 2 文字か 3 文字の局において局名の文字間にバーが入った印影が見られる。これは、刻印を受注した業者が補強のために浅彫りで残した部分が押印の際に写ったものと推定されている。

昭和 40 年代から昭和 55 年ごろまでの最盛期に比べると、梵鐘 60 円の時期には局名間バー入り櫛型印は数量、種類ともに減少傾向にあるようだ。

【文献】高橋 昇『消印 櫛型印以後の消印について』、1996 年。

福岡県



久留米



小倉



小倉西



篠栗



筑紫



筑城



博多南



八幡



八女



行橋

佐賀県



唐津

局名間バー入り櫛型印

長崎県



川棚



黒崎



日宇



平戸



福江

大分県



大分東



白杉



佐伯



津久見



中津



日出



別府

熊本県



小国



川尻



菊池

局名間バー入り櫛型印

宮崎県



小林



高鍋



宮崎

鹿児島県



大口



国分

沖縄県



浦添



沖縄東



コザ



那覇東



八重島